

# 派遣留学生帰国報告書

\* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2019/8/2
所属学部・ 研究科・学府	園芸学部
所属学科・専攻	緑地環境学科・緑地科学

## 1. 留学先について

留学先大学名	プトラマレーシア大学								
留学先所属学部等	森林学部								
留学期間	出発日	2018/8/27	入学日	2018/9/13	修了日	2019/5/27	帰国日	2019/7/10	
住居	● 大学(紹介)の寮・アパート		民間アパート	その他( )					
	通学時間	7分				●	On campus		
	通学方法	徒歩もしくは自転車(3分)							
	居室スペース	個室	●	( 2 ) 人部屋		その他( )			
	共有スペース	完全個室	●	キッチン	●	トイレ	バス	●	リビング
食事	自炊	30 %	学食	60 %	外食	10 %	その他 ( ) %		
保険	海外旅行保険(名称)	東京海上日動							
	派遣先大学指定の保険(名称)	なし					<input type="checkbox"/> 強制加入		
	その他								
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)								
	成田もしくは羽田 ⇄		クアラルンプール			⇄			

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	110万 円							
出どころ								
自費	●	貯金	10万 円	アルバイト	円	その他	円	
援助	●	両親	20万 円	●	家族・親戚	10万 円	その他	円
奨学金	●	JASSO	70万 円	その他名称( )			円	
その他		千葉大学助成金	円	その他( )			円	

## 2-1. 財政管理の方法

渡航時	現金	5万 円	その他( )	円
留学中	海外送金	<input checked="" type="checkbox"/> キャッシング	その他( )	円

## 2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	30,000円銀行現金振り込み
住居にかかった費用	135,000円,銀行現金振り込み
その他	

## 2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			120,000	円
海外旅行保険			200,000	円
OSSMA			20,000	円
査証・在留許可証			0	円
住居			135,000	円
食費			150,000	円
通学に要する交通費			0	円
教科書、教材費			0	円
その他大学に支払った経費			30,000	円
光熱費			0	円
その他 ( 旅行 )			150,000	円
その他 ( ボランティア )			300,000	円
その他 ( )				円
その他 ( )				円

## 3. 学業面

履修科目名	種類 <sup>ex.正規、聴講</sup>	単位数	単位互換認定 申請の有無		
			有	<input checked="" type="checkbox"/>	無
1 Final Year Project A	正規	3	有	<input checked="" type="checkbox"/>	無
2 Final Year Project B	正規	3	有	<input checked="" type="checkbox"/>	無
3			有		無
4			有		無
5			有		無

6				有		無
7				有		無
8				有		無
9				有		無
10				有		無

## 3-1. 授業科目の選択、登録方法

オンライン登録

## 3-2. 授業内容、方法に関して

日本と大体一緒の方法. 内容はシラバスと異なる事があるので注意.

## 3-3. 語学力について

正直あまり英語が出来なくても困らない気がするが, 私はTOEFL87を事前にマークした. 英語でのテストやプレゼンは問題無かった.

## 3-4. 図書館など学内施設について

あまり良い本はないが朝8時から夜10時まで開いている. 冷房が効きすぎて寒いが, 静かで良い. 研究で追い詰められている時に利用した.

## 3-5. その他

## 4. 生活面

## 4-1. 住居について

Guest Houseに1年間住んでいた. 広いし快適である. 前学期はルームメイトと自炊をされていて, 後学期は近くのインドレストラン(夜と週末)に依存していた(Pintu (Gate) 5近く). 部屋が共有のため, 性格が合わない人と一緒になると大変である.

## 4-2. 食生活について

キャンパス内の至る所に食堂があり安い. キャンパスを少し出た所にあるOld Flatにある中国料理をよく利用した.辛い物が苦手でない限り, 大丈夫. 食べ物には注意しろとよく言われたが, 何も問題は起きなかった. 面白い食べ物には挑戦すべき.

## 4-3. インターネット環境、携帯電話について

Guest House 及びキャンパス内ではWifiが使える. 携帯はとりあえずどこかの会社のSIMカードを買って毎月チャージすれば良い. 値段は安い.

## 4-5. 健康管理について

特にない。運動のためにランニング、水泳をしていた。

## 4-6. 保険、OSSMAの利用について

特に利用はしなかった。

## 4-7. 課外活動について

特にしてない。他の留学生と遊ぶ事が多かった。

## 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

特にない。

## 4-9. 日本から持参してよかったもの

栄養剤、常備薬、レインウェア、登山靴、使っているスマホ(SIM解除したもの)、蚊除けのグッズ、パソコン（マレーシアに来るなら自然が好きであろうという想定）

## 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

日本食、全く恋しいと思う事がなかった。

## 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

初対面で宗教の話をしてない。私はよく宗教に関する話を友達としたが、それは仲良くなってから。どの人種の男性ともまず、笑顔で握手する事が大事。マレーシア人女性とは握手不可。その他インドネシア、カザフスタン、モロッコ等ムスリム国女性は人によるので、向こうから手を差し出した場合にする。後は特になし。

## 4-12. 余暇の過ごし方

## 旅行

前学期はフラット皆が自然が好きだったので週末によくハイキングに出かけた。長期休みは自然の王国ボルネオ島で過ごした。シンガポールには1回行ったが、世界的に有名な植物園が2つあるため、大変楽しむ事が出来た。

その他 \*気分転換やストレス発散法など。

水泳(50mのプールが気持ちいい)、ランニング(広いのでいくらでも走れる)、モールで美味しい物を食べる、カラオケに行く

## 5. その他

## 5-1. 留学先大学について

広い設備、校舎が古いこと留学生向けのイベントが少ないことに不満があった。海外留学支援室の対応は早いですが、森林学部の対応は遅かった。

## 5-2. 留学希望者へのアドバイス

目的を明確にする事。

## 5-3. 留学を終えて

現地で研究活動が出来たことは大きな経験だった。地元の人と協力して活動することは大変難しいことであるし、上手くいかない事ばかりであった。研究室で一人で涙を流すこともあった。もし、今度留学する場合は目的をさらに明確にし事前に担当者と具体的に話し合うようにする。小さい頃から出会う事が夢であった生物達に出会う事が出来た。将来研究したい事が山のようにあると感じた。生活面では、人種、宗教について毎日考えさせられた。マレーシア半島にはマレー系、中国系、インド系の3つの人種があり、イスラム教、キリスト教、仏教、ヒンドゥー教、4つの宗教がメインだ。道を歩けば、どこの家にも宗教に関する飾りがあり、街の至る所にモスク、お寺が存在する。また、ボルネオ島はイギリスの影響がとても強く、キリスト教の人が多い。また神道に似た精霊信仰も盛んだ。数えられないほどの言語が存在する。人々は己の信念を守ることに必死である。だが、イスラム教が多数派のマレーシアではイスラム教マレーシア人を優遇している。イスラム教以外の多くの人々がマレー系イスラムの悪口を言うが、宗教に関する犯罪が少ないことを考えれば、上手く行っているのかなと思う。外国人住民が増える日本がマレーシアから学べる事はきっと多いはずだ。マレーシアがイスラム肯定国であるため世界中からイスラム教徒の人がやってくる。イスラム教を信じている人でもその信仰度合いは、国、その人個人によって異なり、特に若い世代はあまり熱心でない人が多いと感じた。私はよく宗教の話を友達とした。カザフスタンから来た友達は、「カザフスタンでは伝統を守る事がメインで、マレーシア系ムスリムより信仰が浅い。また、カザフスタン女性はオープンで、握手は大丈夫」と話した。スーダンから来た友達(女性)は、「イスラム教をやめたから家族に殺される」と話した。本当に殺されるらしい。私と話したほとんどの人が、日本のことをよく知っていた。誰と話しても、「礼儀正しく、掃除ができ、技術力がある。ユニークで美しい街並みが素敵だ。」と絶賛してくれる。例外として、第二次世界大戦中の中国人と韓国人の扱いについてはよく聞かれた。人口が減少し、経済が低迷する日本が、どうすればその良さを保つ事が出来るのか、若い私達は頭を悩ませなければいけない。1番意外な事が、地元の学生と仲良くなれなかったことだ。地元の学生はいつも集団でいて、話しかける事が難しい。日本に来ている留学生がどんな思いをしているのか理解できた。キャンパス内で、留学生が1人で寂しそうなら、明るく声を掛ける、その1つだけで、その人の留学生活を変える事が出来る。